

| | | | |
|------------------------|---|---------------------|-----------------------------|
| 演題名 | 次亜塩素酸Na使用量の見直し | | |
| 施設名 | 茅ヶ崎セントラルクリニック | (ふりがな) 発表者(職種) | (えんどう ひろと) 遠藤 洋斗(臨床工学技士) |
| (ふりがな) チーム名 | (けいひさくげんたい) 経費削減隊 | | |
| 分類 | ④無駄の削減や能率向上、業務環境の改善をめざすもの | | |
| 取り組種別 | 問題解決型 | | |
| 改善しようとした 問題課題 | 過剰と思われる経費、特に日常的に使われているものに対して、一つ一つ丁寧に見直し、経費そのものを圧縮することを目的とした | | |
| 改善の指標と その目標値 | (指 標)次亜塩素酸Na年間消費額 (目標値)年間238,680円の削減 | | |
| 実施した対策 | 次亜塩素酸Naの使用に関して ①現状把握 ②次亜塩素酸Naそのものの購入先比較 ③ガイドラインと合致した使用法の周知徹底 ④単価の安い商品の情報収集と導入 | | |
| 改善指標の 対策実施 前後の変化 | (実施前)330,551円 (実施後)58,151円 年間272,400円の経費削減効果 | | |
| 歯止めと 標準化 | 説明会の開催、マニュアルの作成、定期的な採用品比較機会の創出 | | |
| 活動の種類 ※複数選択可 | ①職場単位の活動 ②複数の職場が連携した活動 ④組織全体で取り組んだ活動 | チーム メンバー (職種) | 1 遠藤洋斗 臨床工学技士 |
| 活動の場 ※複数選択可 | ①診療部門 ③管理部門 | | 2 毛利朋代 事務 |
| 活動期間 | 2024年1月～2024年4月 | | 3 吉時裕次 看護師 |
| リーダー名 (職種) | 遠藤 洋斗 (臨床工学技士) | | 4 花崎卓朗 看護師 |
| 活動回数 | 8 回 | | 5 若林陽盛 事務長 |
| | | | 6 |
| | | 7 | |
| | | 8 | |
| | | 9 | |
| | | 10 | |
| | | 11 | |
| | | 12 | |
| | | 13 | |

【現状把握】

| 現状把握 | | | | | |
|-----------|-----|------|-------|-------|--------|
| 2024.1月時点 | m/回 | 頻度/w | 週間使用量 | 月間使用量 | 年間使用量 |
| 勤洗手 | | | | | |
| 耐手 | 150 | 12 | 1800 | 7740 | 93600 |
| 筆蓋 | 150 | 24 | 3600 | 15480 | 187200 |
| 駆血筆 | 100 | 24 | 2400 | 10320 | 124800 |
| フット | 60 | 6 | 360 | 1548 | 18720 |
| ベルト | 30 | 3 | 90 | 387 | 4680 |
| 靴室 | | | 8250 | 35475 | 429000 |
| ME | | | | | |
| RO洗浄 | 800 | 1 | 800 | 3440 | 41600 |
| 個人機 | 200 | 6 | 1200 | 5160 | 62400 |
| 吸引洗浄 | 10 | 6 | 60 | 258 | 3120 |
| 靴室 | | | 2060 | 8858 | 107120 |
| タリーン | | | | | |
| モップ洗浄前 | 100 | 6 | 600 | 2580 | 31200 |
| タオル洗浄 | 40 | 6 | 240 | 1032 | 12480 |
| モップ洗浄後 | 100 | 6 | 600 | 2580 | 31200 |
| 靴室 | | | 1440 | 6192 | 74880 |
| 総使用量 | | | 11750 | 50525 | 611000 |



次亜塩素酸Na
院内全体での
年間使用量 611ℓ

現状把握



現行採用品：年間使用額換算

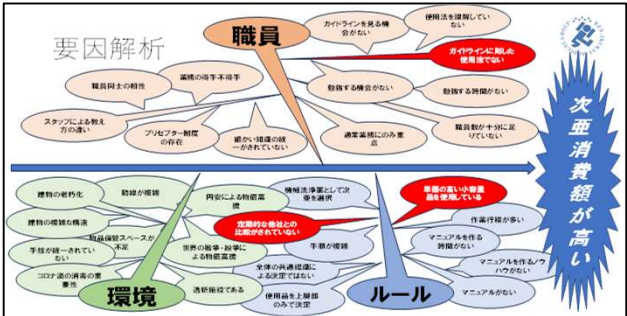
ピューラックス6%1.8ℓ
価格974円 **541円/ℓ**
611ℓ × 541 = **330,551円**

【目標設定】

| 目標設定 | |
|------|-----------------------------|
| 何を | 次亜塩素酸Na 予想年間消費額 |
| いつ | 2024年4月中に |
| どうする | 2,386,800 × 10% = 238,680削減 |

根拠
2024.6の診療報酬改定で透析は一律9点減点
(90円 × 156透析/人 × 170患者) × 10% = 238,680

【要因解析】



【重要要因検証】

| 重要要因検証 | | | |
|--------|--------------------|--|----|
| | 重要要因 | 検証結果 | 判定 |
| 1 | 定期的な他社との比較が行われていない | 最初に導入してから20年同一度も比較検証されていなかった | ○ |
| 2 | ガイドラインに則した使用方法ではない | ガイドラインと比べて、使用量が明記されていない業務でも使用していた | ○ |
| 3 | 単価の高い小容量品を使用している | 現行の6%1.8ℓのものよりも、20ℓ近い大容量の物、12%の高濃度の物等、単価がより安価な商品があることが分かった | ○ |

【対策立案】

| 対策の立案 | | | | | | |
|--------------------------|---------------------|--------------|--------------------|----|-----|-------|
| ◎：5点 ○：3点 △：1点 ※10点以上を採用 | | | | | | |
| 重要要因 | 一次対策 | 二次対策 | 三次対策 | 効果 | コスト | 時間 点数 |
| 1 | 定期的な他社との比較が行われない | 検討する場を設ける | 検討するためのデータをまとめる | ○ | ◎ | △ 9 |
| 2 | ガイドラインと合致した使用方法ではない | ガイドラインを確認する | 薬剤マニュアルの修正とクリーンへ提示 | ○ | ◎ | ◎ 13 |
| 3 | 単価の高い小容量品を使用している | 単価の安い商品の情報収集 | ディーラーへの交渉 | ◎ | ◎ | ◎ 15 |

【対策実施①】

対策の実施①

患者治療環境の清掃・消毒

- 透析ベッドの観音アパーチャー、椅子などの環境表面、および透析（医理）装置外装は、透析終了後に洗浄（清掃）し、適切な消毒薬を用いて消毒することを実施する。（Level 1 A）
- リネン類は患者ごとに交換することを推奨する。（Level 2 B）
- リネンが汚染されることが予想される場合には、ティッシュペーパーなどでリネンの保護を行い、リネンに明らかな汚染がある場合には交換することを推奨する。（Level 1 B）
- 患者やスタッフの手が触れる高頻度接触面に対しては、1日複数回拭き消毒を行うことを推奨する。（Level 1 A）
- 床や壁など、それ以外の場所に関しては、消毒薬を用いる必要は全くない程度の清掃を推奨する。（Level 2 C）

清掃スタッフの業務を改善
床の清掃に次亜使用→これを廃止（ガイドラインに記載なし P.44）
20231231_infection_control_guideline.pdf (touseki-ikai.jp)

【対策実施②】

対策の実施②

6% → 12%
2倍の濃度 → 使用量は半分

食品添加物 次亜塩素酸ナトリウム 有効塩素12%以上 2.0kg

ピューラックス6%1.8ℓ → 次亜塩素酸Na12%20ℓに変更
固定箇所には次亜タンクを配管し、各部室そこから補充する形に変更

【効果の確認】

効果の確認 (有形効果)

ピューラックス1.8L 価格974円 **541**円/L
 $611\ell \times 541 = 330,551$ 円

12%次亜塩素酸Na20kg 価格4,248円 **212**円/L
 $=106$ 円/L/6%
 $(611 - 62.4)\ell \times 106 = 58,151$ 円

達成

事務長へ
 クリーンさんのモップ洗浄
 の次亜量引きました

272,400円コストカット

【無形効果】

無形効果

- 6%1.8ℓ → 12%20ℓ になったことで実質的な院内保管量が増加
- 清掃スタッフに関して業務が簡略化され、他業務に充てる時間が増加
- 管理場所が一元化されたことにより、院内それぞれで場所を使用していた次亜使用期限が管理しやすくなった

【波及効果】

波及効果

- スタッフ個々人の削減に対する意識が向上した
- 次亜消費額削減の成功を受けて、他物品の消費額削減についても議論する場が設けられた
- 次亜以外にもガイドラインに則していない業務がないか確認が行われた

【標準化と管理の定着】

標準化と管理

| Why | Who | When | Where | What | How |
|-----|---------|--------|-------|-------------|-------------|
| 教育 | TQMメンバー | 新規品採用後 | 会議室 | 新規次亜使用法 | 説明会の開催 |
| 標準化 | TQMメンバー | 新規品採用後 | 透析室 | 濃度変更に伴う業務改定 | マニュアルの作成・掲示 |
| 管理 | 会議出席者 | 1年に一度 | 運営会議 | 採用品の価格比較 | 検討会の開催 |

【反省と今後の進め方】

反省と今後の進め方

| | 良かった点 | 悪かった点 | 今後の進め方 |
|-------------|-------------------------|-------------------------|------------------------|
| 1.テーマの選定 | 明確な理由を持ってテーマを決定出来た | 費用削減にフォーカスしすぎた | さらに範囲を広げて思考する |
| 2.現状把握・目標設定 | 目的を明確化し、詳細なデータを取ることが出来た | 詳細な調査をするため時間を要した | より効率的にデータ取りを行い、時間を短縮する |
| 3.要因の解析 | チーム全体で取り組めた | 細かく突き詰めることで時間を要してしまった | より詳細に解析を行っていく |
| 4.対策の立案・実施 | 一方向ではなく多角的な検討が出来た | 3つ程度の案からの検討になってしまった | より多角的にもっと多くの案を出す |
| 5.効果の確認 | 元の値の8割を超える削減が行えた | 業務負担が若干増えてしまった | PDCAを繰り返していく |
| 6.標準値と管理の定着 | 定期的に見直すためのシステムが構築出来た | スタッフ個々人のコスト意識向上には至っていない | コスト意識向上のための仕組みを構築していく |